

こんな先生
いるよ!

自分に備わった力を

恐れずに発揮しよう

教養教育研究院 葛飾キャンパス教養部 教授

きた かず たけ
北和文 先生

クセを知り読解力へつなげる

どのような研究をされていますか？

英語を対象とした応用言語学の研究をしています。テーマは「文体論」「批判的言説分析」「英語教育」の3つです。

「文体論」とは、読めば誰が書いたのか分かるといったような、文章に現れる書き手の書きぶりやクセなどの特徴の分析です。また、「批判的言説分析」とは、「人の語ることが知らず知らずどう偏ってしまうのか」を考える手法です。そのために、国内外においてこれまでどういった英語教育が望ましいとされ、実践されてきたかをたどる「英語教育言説史」の研究も行っています。学生は研究室配属後に英語の論文読解が必要になりますが、論文英語にもクセがあり、慣れれば読むポイントが見えてきます。今の時代はA-の使い方も重要です。1・2年時にここでしっかり学び、読解のコツをつかんでほしいと思います。

英語は苦手と思いがち

英語の研究者になったきっかけは。

地元富山の中学で英語を学び始めて以来、英語は「怖い」ものでした。英語ができないと大変だというプレッシャーを感じ、一生逃げられないものだと思って必死で英語の勉強をした結

果、気づいたら周囲より得意になっていました。両親が教師だったため、「いつか人に教えたらい」「教えるならさらに上達しなければならぬ」という思いもありました。言語学の道を選び、イギリスへ留学もしましたが、「英語が怖い」私にとって、いわば修行のようなものでした(笑)。

理科大の学生は、能力は高くても「理系だから」という理由で英語に対する苦手意識を持つ人が多いと思います。私もそうでしたが、ネイティブのごとく話せる人が周囲にいと「自分はあのレベルにはなれない」と自信を失うこともあります。でも留学して分かったのは、ネイティブスピーカーカータ

イプより、意外とアジア人の方が文法をきちんと理解していて、読解能力が備わっているということでした。学生たちにはもつと自信を持つてほしいと思います。思いながら日々接しています。

勉強だけじゃ面白くない

趣味を教えてください。

趣味は卓球です。昨年は地域の大会で3位入賞を果たしました。もともと中学の部活で経験はありましたが、運動不足解消のため、30代で地域の卓球教室に通い始めたのがきっかけです。ラケットで球を打っているときは絶叫して、別人になります。

こうして研究以外のことには打ち込むのも、2人の恩師の影響があると思います。「プロ並みの漫画を描く将棋と合気道の達人」と、「サククス奏者の経歴を持つイギリス人のプロの詩人」で、いずれも大学在学中にお世話になった英語研究者です。当時、このお二人が准教授で同じ部屋だったのでどちらを訪ねてもお二人がいつも迎えてくれました。

藤沢享乃(ジエイクリエイト)



イギリスのレディング大学大学院卒業時。ホームステイ先の夫妻と共に



自己表現を形にすべく、自身で制作した詩集



地元の卓球クラブに所属し、週末は幅広い世代の仲間と練習に励む